

ソーシャル PM ニュース 2015年5月

2015年5月21日更新

PMI 日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

ソーシャル・プロジェクト（社会課題の解決を目的とするプロジェクト）のマネジメントについて、研究活動の状況、イベント、人材募集などについてお伝えします。

2015年5月 もくじ

- A. 研究会活動の状況
 - A1 WG2（ソーシャル PM 手法開発 WG）の活動計画紹介
 - A2 ソーシャル PM 一問一答
- B. ソーシャル PM コミュニティ&イベント
 - B1 Facebook（ソーシャル PM コミュニティ）の公開
 - B2（PMI 日本フォーラム案内）デザイン思考で社会課題の解決に挑戦
- C. 連携団体情報・プロジェクト・マネジャー募集
 - C1 「WORK FOR 東北」プロマネ募集
 - C2 「サービスグラント」イベントのご案内・プロマネ募集

=====

A. 研究会活動の状況

A1 WG2(ソーシャル PM 手法開発 WG)の活動計画紹介

ソーシャル PM 研究会は、4つの WG（ワーキング・グループ：作業部会）によって構成されており、各 WG の役割と WG 間の関係は図 1 に示すとおりです。

今回はワーキング・グループ 2（WG2、ソーシャル PM 手法開発 WG）の計画についてご紹介します。

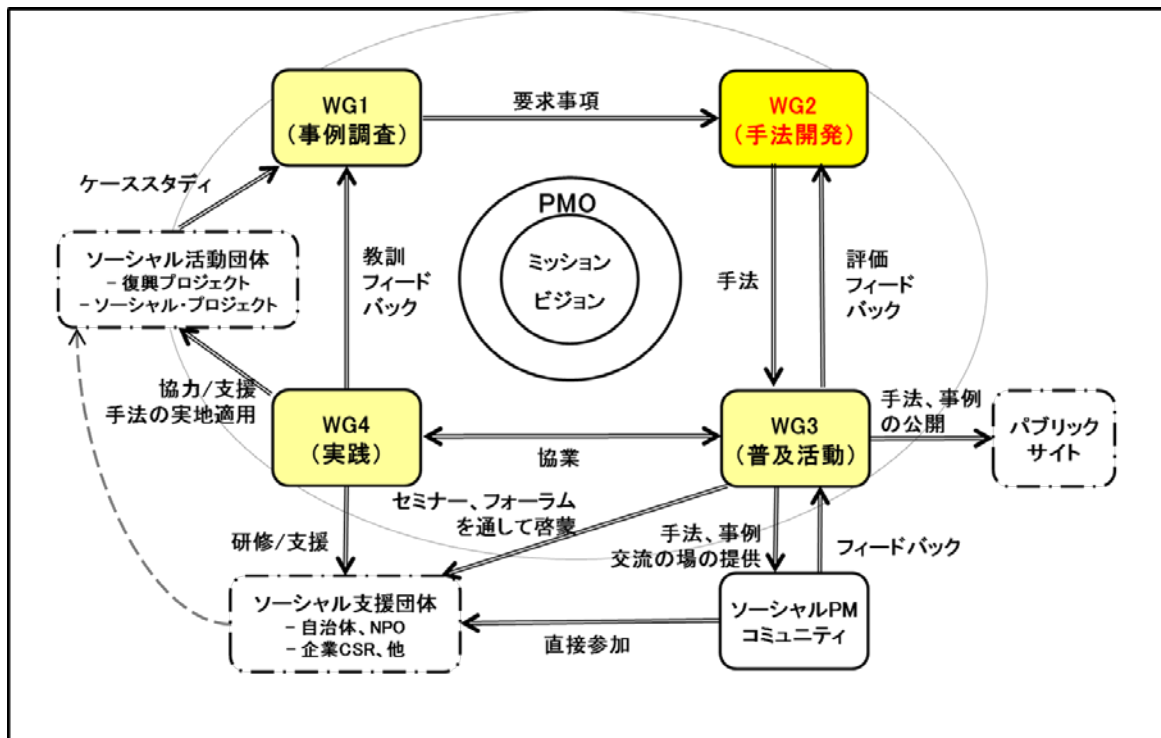


図1 ソーシャルPM研究会の全体像

WG2（ソーシャルPM手法開発WG）は、“社会的活動に本当に役立つPM手法”を提供することを目的とした活動を行っています。

他のWGと協力してソーシャル・プロジェクトの事例を調査し、「どのようなPM手法」を、「どの領域、部分、工程」に、「どの段階」で、「誰に」対して、「どのように」提供すれば役立つかを分析、その結果を手法に反映させて、ソーシャルPM手法を開発し、実地適用とそのフィードバックを経て継続的な改善も行っています。

本年度の活動は図2に示すように次の4つの柱で進めています。

- ① ソーシャルPM要求マネジメント
- ② ソーシャルPM手法の開発
- ③ セミナー、ワークショップによるソーシャルPMの啓蒙、研修
- ④ 開発した手法の評価、改訂

		2015年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
イベント				★セミナー						★フォーラムで成果発表		実践ワークショップ	★
WG2 活動		社会活動団体アンケート(WG1支援)						社会活動団体フォローアップインタビュー					
	3	セミナー準備			フォーラムの準備			実践ワークショップの準備					
	1	ソーシャルPM要求マネジメント											
	2	デザイン思考の適用						Agile, PgM, PFMの適用検討					
	4	開発した手法の評価・改訂											

図2 WG2（手法開発）の2015年 年間計画

以下に、今年度のWG2（手法開発WG）活動4つの柱について概要をご紹介します。

① ソーシャルPM 要求マネジメント

WG1 と協力してソーシャル活動に関する広範アンケートを行います。これまで関係を構築してきた NPO・企業等をはじめとして、いろいろなタイプの団体に、ソーシャル活動を推進していくうえでの課題・教訓などに関して、ウェブサイトを中心としたアンケート調査を行い、その分析結果と他の事例調査をもとに要求マネジメントを継続的にを行います。

② ソーシャルPM 手法の開発

上記の要求マネジメントを通じて、手法への要件定義を行い、今までに蓄積された PFM、PgM、PjM などの手法をベースにソーシャルPMの手法の開発を進めます。ここでは、ソーシャル活動におけるステークホルダーごとの目標の多様性、環境変化の速さなどを考慮してデザイン思考、ビジネスモデルデザイン、アジャイルの手法の適用を検討します。

③ セミナー・ワークショップ

ソーシャルPMの啓蒙、研修については、WG3（普及活動WG）と協力して、PMI 会員および実地のソーシャル活動家を対象にWG2の開発するPM手法の研修を予定しています。今年末から2、3カ月に1回のペースでソーシャルPMの実践的なテーマについてワークショップを開催し、手法の習得と並行して実際のソーシャル活動への適用例について体験学習も行う予定です。また、それらの内容はWG3を通じて公開し、その活動を通じて、ソーシャルPMの普及を図ります。

④ 開発した手法の評価、改訂

WG1～4の他のグループと協業してフィードバックを得て、新規な要求を要求マネジメントに反映させ、継続的な改訂と新しい手法の開発を進めていきます。

WG2（手法開発 WG）は、これら 4 つの柱を軸として、研究会の月例会および必要に応じて開催する WG2 独自のオフ会や、サイボウズなどの情報共有用 IT 環境を利用して活動を進めていく予定です。

なお、ソーシャル PM 研究会全体についてのご案内は次のサイトをご参照ください。

https://www.pmi-japan.org/session/study_club/social_pm.php

これらの活動にご関心を持たれましたら、ぜひご参加ください。

オブザーバー参加（PMI 日本支部会員であることが前提です）も可能ですので、PMI 日本支部事務局へお問い合わせください。

A2 ソーシャル PM 一問一答

ソーシャル PM という新しい取り組みはまだ概念も十分に確定していないので、いろいろな質問をいただきます。その中で特に広く皆さまにご理解いただきたいテーマについて連載で解説していきます。

内容についてみなさまのご意見もお聞かせください。

(Q2) ソーシャル活動は多様なので、型にはまった手法は適さないのではありませんか？

(A2) 多様なものに適する手法を、状況に応じて柔軟に選択します。

ソーシャル活動では「行動を開始する初期の段階では必ずしもゴールが明確に決まっていない」という難しさがあります。一般的にソーシャル活動では、多様なステークホルダーが関わっており、ある目的に向かってそれぞれが熱い想いを持って取り組もうとしていますが、目指すところのゴールイメージが各人各様であることが多いのです。

計画をきっちりと決めて、できるだけ変更をせずに粛々と作業を進めていくのが、これまでのプロジェクトマネジメント標準（PMBOK®）の基本的なアプローチでした。そのためは、あらかじめゴール（成果物）が決められていて、進行中に環境がそれほど変化しないということが前提になります。企業内のシステム開発プロジェクト、業務改革プロジェクトなどは、これまで比較的そのような状況の下で進められてきました。企業内のプロジェクトであればトップダウンで方向性を決めることもできるでしょう。

ソーシャル活動の場合はいろいろなステークホルダーの意思を尊重して、実際の現場に入って問題の本質を捉え、試行錯誤をしながら大方の合意を作り上げていくこととなります。そのようなアプローチを可能にするのが「**デザイン思考**」です。デザイン思考とはどういうものか、詳しい内容は事例や体験ワークショップを含めて 7 月のフォーラムでご紹介しますのでぜひご参加ください。（下記、「**B2（PMI 日本フォーラム案内）デザイン思考で社会課題の解決に挑戦**」を参照）

B. ソーシャル PM コミュニティ&イベント

B1 Facebook(ソーシャル PM コミュニティ)の公開

ソーシャル PM 研究会では、これまで Facebook の非公開グループで情報交換を行ってきました。それをさらに発展させ、ソーシャル PM の普及と外部への情報発信を強化する目的で、6月中旬をめどに「ソーシャル PM コミュニティ」という名称で Facebook 公開グループといたします。

これにより、社会課題の解決に取り組んでおられる方、ソーシャル活動への PM の適用に関心をお持ちの方に、より身近な情報共有、意見交換の場(=コミュニティ)ができるのではないかと期待するところです。

ソーシャル PM 研究会からの情報発信としては、この「ソーシャル PM ニュース」と連動して以下のような情報を随時提供します。

- 研究会の活動、成果の紹介
- イベント、セミナーの告知
- 連携団体の情報共有

このような情報提供を契機に、コミュニティ内でのソーシャル PM に関わる意見交換が活発に行われていくことを期待しています。

「ソーシャル PM コミュニティ」を活性化するためにも、多くの方が参加することを望んでいます。詳細は追ってお知らせします。

B2 (PMI 日本フォーラム案内)デザイン思考で社会課題の解決に挑戦

7月11日(土)ー12日(日)に開催される PMI 日本フォーラムでは、ソーシャル PM 研究会は11日(土)午後の3セッションでこれまでの研究成果を「デザイン思考で社会問題の解決に挑戦する!!」という統一テーマでまとめ発表します。ぜひご参加ください。

① ソーシャル PM 実践報告「情報支援レスキュー隊プロジェクト」

徳永 礼 7月11日(土) 16:25~16:50

IT(情報技術)の力を使い、被災地に赴き情報の収集・活用・発信に貢献しようという取り組みです。被災地と支援を行う行政、団体、個人を情報で

つなぎ実効性ある支援活動ができる環境を実現することを目指します。

② デザイン思考ソーシャルPMものがたり

高橋 正憲 7月11日(土) 17:05~17:30

「レスキュー隊プロジェクト」の経験を分析して、ソーシャル・プロジェクトをどのようにマネジメントすれば効果的かを考えます。実際にプロジェクトに参加して専門家の活動を見守ってきました。

その一つの答えがデザイン思考です。

③ デザイン思考ソーシャルPM体験ワークショップ

中谷 英雄 7月11日(土) 17:40~18:05

デザイン思考の最も重要なメソッドを体験していただき、ソーシャルな課題解決にいかんデザイン思考が有効であるか、参加者とともに知見を共有することを狙います。

現在の知識社会では、社会をより良い方向へ変化させる新しい発想が常に求められます。しかし「社会を良くするアイデア」をどのように体系的に生み出すのか、その具体的な発想法は定着していません。

そして、私たちの社会は、今までの技術主導や経済性主導から感性主導の社会に移行してきています。価値基準の重層化や、人々の関心の多様化に伴い、社会のあらゆる側面で感性的な観点が重視されてきています。

現在の社会に見られる多くの課題は、今までのアプローチでの解決が難しくなっていると言われます。その理由の一つとして、感性主導の社会に移行してきていることが考えられます。

この現在の社会が抱える課題とその解決の難しさは、不確実性の観点から考えると理解しやすいと思います。不確実性が低ければ、今までの軌跡から今後を線形で予測でき、統計分析的な手法を用いて未来が予測しやすくなるはずですが、実際今までは、社会や産業における問題解決には、技術的もしくは経済的な観点に立ち、論理的、統計分析的な解決策が取られてきました。

しかしながら、不確実性が上がれば、選択肢が増加するため予測がしづらくなります。現在の社会や企業の取り扱う問題は、社会的かつ感性的になり、より予測しづらい不確実性が高い課題へとシフトしていると考えられます。その不確実性に対処するアプローチとして注目されるのが「デザイン思考」です。

今までの統計分析的な手法や論理的プロセスは、ある一定の不確実性レベルまでは非常に有効な手法となりますが、一定以上になった場合に効果を発揮するのが、デザイン思考であるといえるのではないのでしょうか。

不確実性が高い課題は、社会的で感性的だと前述しましたが、その社会文化的な影響は、デザイン思考にも色濃く出ています。

イリノイ工科大学デザイン大学院大学のヴィージェイ・クーマー教授のデザイン思考は、1) 目的を見いだす、2) コンテキストを知る、3) 人々を知る、4) インサイトをまとめる、5) コンセプトを探究する、6) 解決策を探る、7) 製品・サービスを実現するという7つのプロセスから構成されています。その手順は、直線的に1から7へと進んでいくプロセスではなく、実際は非直線的に行われます。状況に応じてそれぞれのプロセスを往復し、さまざまな角度から繰り返し課題を再検討する中で実際の行動へとつなげていきます。

C. 連携団体情報・プロジェクト・マネジャー募集

ソーシャルPM研究会が連携している団体からのプロマネ募集です。

C1 日本財団「WORK FOR 東北」(復興庁協働事業) プロマネ募集

◆お勧めの案件

[岩手県岩泉町] 地域づくりコーディネーター【統括マネジャー】

震災により被害を受けた地区のコミュニティ構築、農産物の販路拡大、商店街や岩泉まるとしての宣伝事業の実施などを行う地域づくりコーディネーターの統括マネジャーとして、スタッフ間の情報共有、県内外の企業等と町内資源のマッチングを担当いただきます。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/94>

[宮城県気仙沼市] 気仙沼「海の市」誘客への企画・推進ディレクション

震災前は年間100万人が利用していた海鮮市場「海の市」(2014年7月再開)に震災前の賑わいを取り戻すため、継続的な集客イベントの企画立案、「海の市」のブランディング、新商品の開発・販路開拓等のマーケティングを担当いただきます。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/71>

[福島県大熊町] 大熊町復興支援員【避難者コミュニティ復興支援 総括責任者】

原発事故により町外に避難を余儀なくされている町民の方々のコミュニティ構築のため、交流イベントの実施や交流拠点の運営などを行う復興支援員として、チームのマネジメント業務(メンバーの取りまとめ、タスク管理、進捗管理など)を担当いただきます。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/126>

[福島県浪江町] 浪江町農業再生プログラムコーディネーター

原発事故による全町避難からの復興・再生を目指す浪江町において、基幹産業である農業の再開に向け、農事復興組合の設立、農地の保全管理、除染後農地の試験栽培等の取組みが行われようとしています。この農業再生プログラムにおいて、連携する団体や各地域をつなぎ、その活動を支援するコーディネーター業務を担当いただきます。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/85>

その他、全体の募集案件は以下よりご覧いただけます。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/>

◆ 「WORK FOR 東北」 事業について

<http://www.work-for-tohoku.org/>

「WORK FOR 東北」では、東日本大震災で被災した自治体などの人材ニーズと、復興の現場で働きたいという個人、企業の方をお繋ぎするサポートを実施しております。復興に携わる業務にご関心のある方、ぜひ一度ご検討頂ければ幸いです。

お問い合わせ・お申し込みは以下まで

日本財団「WORK FOR 東北」事務局

東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5F

TEL : 03-6229-5229 (9:00~18:00/土日祝除く)

E-Mail : jinzai-pf@ps.nippon-foundation.or.jp

C2 「サービスグラント」イベントのご案内・プロマネ募集

■ サービスグラントのご紹介

2月号よりご紹介いただいております、NPO 法人サービスグラントです。『ビジネススキルや専門知識を活かしたボランティア活動』である“プロボノ”のコーディネートを通して、NPO の支援を行っています。

いよいよ次期プロジェクトの立ち上げが迫ってまいりました！ご参加希望者の方には 6 月中旬までにスキル登録とプロボノワーカー説明会へのご参加をご案内しております。また 5 月中は“プロボノキャラバン”としてのイベントを引き続き開催いたします。多くの皆さまのご参加、心よりお待ちしております。

2015 年度第 2 期立ち上げ間近！

プロボノワーカー説明会&プロボノキャラバン開催スケジュール

サービスグラントでは、NPOからの助成申請・審査を経て、4カ月に1度新規のプロジェクトの立ちあげを迎えており、次期は7月に立ち上がります。

《ご参加までの推奨スケジュール》

- ・6月中旬までに：スキル登録、プロボノワーカー説明会ご参加
- ・6月下旬：プロジェクト立候補募集、チーム編成
- ・7月：プロジェクトキックオフ

【1】プロボノワーカー説明会開催スケジュール

実際のプロジェクトにご参加いただくための必須条件として、皆様には「説明会」へのご参加をお願いしています。説明会では、より詳しくサービスグラントの考え方、これまでの実績、プロジェクトの進め方、参加にあたっての留意点等をご案内させていただいており、お時間としては1時間～1時間半程度です。

《5、6月プロボノワーカー説明会スケジュール》

5月27日（水）、6月3日（水）、24日（水） 19:30-21:00

6月13日（土）、27日（土） 10:30-12:00

▽ 説明会について詳しくは>><https://www.servicegrant.or.jp/skill/orientation.php>

【2】プロボノキャラバン in TOKYO

社会貢献に興味がある、自分の力を会社の外で試してみたい、自分自身の視野を広げたい、そんなみなさんのプロボノデビューを応援するキャンペーン企画です。4月から引き続き、5月もプロボノの「入口」となるイベントを、東京のあちこちで、毎週のように開催します。

新しいことをスタートするのにぴったりのこの季節。プロボノキャラバンへの参加から、一歩を踏み出してみませんか？ 残すところあと1回になりましたが、ご関心のある方はぜひご参加ください。

《プロボノキャラバン in TOKYO 期間中イベント一覧》

5月30日(土) Hello! プロボノ in 国分寺 = 西東京エリアでのプロボノキックオフイベント!

詳細・申し込み>><http://www.servicegrant.or.jp/event/index.php?id=148>

【お問い合わせ先】

NPO 法人サービスグラント (担当: 岩渕)

03-6419-402

info@servicegrant.or.jp

=====

編集後記

震災後4年余の復興支援の教訓からITプロジェクトとは異なるマネジメント手法が必要だということがわかり、ソーシャルPM研究会が発足しました。その後の研究で得られた一つの結論がデザイン思考のアプローチです。7月のフォーラムでその概要を発表するとともに、今号で紹介したWG2(手法開発WG)のメンバーを中心にソーシャル活動に適する形を作っていきます。ぜひみなさんもデザイン思考にご注目ください。

このニューズレターは社会課題解決の志を同じくするプロジェクト・マネジャーのコミュニティ醸成のために関係団体のイベントや人材募集の情報連携をいたします。毎月15日の発行を目標にしますので、掲載希望のニュースをお寄せ下さい。

発行者: PMI日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

責任者: 研究会代表 高橋 正憲

=====